

第16回研究会(平成13年度津波防災対策現地調査)

調査名:三陸海岸津波防災対策現状調査

1) 目的

三陸海岸は、過去、我が国史上最大級の津波といわれる明治三陸津波(1896年6月15日, M6.8)、昭和三陸津波(1933年3月3日, M8.1)、チリ地震津波(1960年5月24日)の三度大津波による被害を受けている。明治三陸津波では、死傷者25,000人以上、流出家屋8,500戸以上にものぼり、我が国の津波災害としては史上最悪であった。特に、岩手県の被害は大きく、犠牲者は沿岸市町村人口の約3割、流出家屋でも全戸数の約3割強にも達した。このときの津波高さは、最大で32.6mと巨大であったことと、地震発生から短時間で津波が来襲したこと、来襲した時間が午後8時7分と一家団欒の時間帯であったことが被害をさらに大きくした。昭和三陸津波でも、最大津波高28.7mの巨大津波が来襲し、死傷者行方不明者を併せて4,000人以上、流失倒壊等の家屋10,000戸以上と明治三陸津波を彷彿させる被害をもたらした。さらに、遠い南米のチリ沖で起こった地震による遠地津波は、一日かけて太平洋を横断し、何の前触れもなく三陸海岸を襲い、津波高さが6mを越えたところもあり、多くの人命を奪い去った。

三陸海岸は宮古市を境に北と南で全く異なる地形を呈している。北は、断崖絶壁が続く隆起海岸であり、南は、リアス式海岸の沈降海岸である。このような津波高さが極端に大きくなりやすい地形的特徴から、過去に幾度となく津波災害を被る津波常襲地帯となっている。

このような経緯から、岩手県を含めた沿岸市町村は、様々な津波対策を独自に進めてきており、我が国で最も津波対策が進んでいる地域である。

今年の本研究会における現地調査では、この岩手県三陸海岸を対象に、歴史津波の痕跡を調査し、津波災害の凄まじさを体感することによって、津波災害に関する意識改革を行うことを目的とする。さらに、我が国で最も進んでいる津波対策の現状について調査を行い、東海・東南海・南海地震津波への適用性を模索するとともに、今後の津波防災計画構築の一助とするものである。

2) 内容

明治三陸津波(1896年6月15日, M6.8)、昭和三陸津波(1933年3月3日, M8.1)、チリ地震津波(1960年5月24日)の三度大津波の痕跡調査
津波防災対策の現状調査

平成 13 年度 津波防災対策現地調査 行程表

三陸海岸津波防災対策現状調査

9月27日(木)

- 8:00~05 大阪(伊丹,関空)・名古屋空港 出発
9:05~35 仙台空港到着
10:15~25 J R 仙台駅(東京組合流)
12:30~13:00 狛鼻溪(昼食)
14:50~15:30 陸前高田市における現地調査
(チリ津波対策事業,CCZ事業(陸前高田海岸))
16:30~17:00 三陸町綾里白浜海岸 における現地調査
(痕跡値38.2m:明台三陸津波(1986,M6.8),明台以降の最高記録)
18:00 釜石市(泊)

9月28日(金)

- 8:00~ 9:30 ホテルにて勉強会(津波研究家 山下文男氏 講演)
10:30~12:00 釜石市における現地調査(釜石湾口防波堤視察)
12:00~13:00 釜石市(昼食)
14:30~15:10 宮古市における現地調査(津軽水門,防潮堤視察)
16:00~17:00 田老町における現地調査(津波監視システム,防潮堤視察)
17:30 田老町(泊)

9月29日(土)

- 8:30 ホテル出発
9:00~ 9:20 小本町における現地調査(小本川河口津波水門視察)
12:00~13:00 盛岡市(昼食)
14:30~15:30 平泉・中尊寺(金色堂視察)
17:15 J R 仙台駅(東京組解散)
18:00 仙台空港(解散)

宿泊ホテル

9月27日(木) 陸中海岸グランドホテル

岩手県釜石市港町1-2-3()0193-22-1211,(Fax)0193-22-2744

9月28日(金) グリーンピア田老

岩手県下閉伊郡田老町向新田148()0193-87-5111,(Fax)0193-87-5118